

シビルウエディング・
ミニスターが語る

心にかける挙式

▶ 挙式で新郎のコーヒーマイスターとしての心構えを伝えた



誓い、その誓いをこれからの人生で実行する」です。

2009年晩秋、穏やかな日差しが射す午

結婚予定者からシビルで挙式をしたいとの相談を受けますと、司式を司る「シビルウエディング・ミニスター」の立場から、私は、挙式の意義を次のように説明します。

結婚式、特に挙式において一番大切なことは、これまで2人を温かく見守り、励まし、支えて下さった両親、兄弟姉妹、親戚、友人、会社の同僚に感謝の念を伝えながら、その方々に証人になっていただき、誓いを立てることです。

私はこれを「真実の誓い」と命名しています。その趣旨は、「2人が十分に話し合い、そこから生まれたこれからの生き方を証人の前できちんと

後、本田幸太郎さんが史穂さんと幼い娘の董ちゃんを連れて挙式の相談にきました。

2人はすでに共に暮らしていますが、結婚式は挙げていないようでした。

私は、いつものようにシビルウエディングの趣旨説明を始めました。

私の話を真剣に聞き入る本田さんの腕に火傷の痕があることに気づいた私は、「どうされたのです、その腕」と訊きました。

「私はマイスターとしてコーヒー店で働いております。お客様の好みに合わせたコーヒーを提供しようと日に何度も豆を焙煎（ばいせん）して

います。いろいろな豆を試していただくうちに、お客様は好みの豆に出合い喜びます。そのお手伝いをするのが私のささやかな幸せなのです…実は昨夜、店を閉めてから豆を焙煎する機械の調整を始めました。焙煎の機械はお店の心臓ですから何よりも大切なのです。調整が終わり、テ

職業への真摯な態度など「人柄」も確認しあう「真実の誓い」

ストをしている最中に、うかつにも火傷をしてしまったのです」

と、嬉しそうに語ってくれました。

彼の“勲章”を見ながら、私は、こういう試練を乗り越えるたびに彼が入れるコーヒーの味もまた一段と増していくのだなと思いました。同時に、こういうカップルの挙式を司ることができる喜びを覚えました。

結婚式の当日、花婿の両親が乗る車が事故渋滞にあり、挙式が遅れるハプニングがありました。駆けつけた彼の両親

は、礼服にきがえる時間がなく普段着のまま挙式に列席しました。

プロフィール紹介の時、列席の方々に新郎・本田さんの人柄を知ってもらうために、彼のコーヒーに対する思い入れと、人様に小さな安らぎのひとつを提供するささやかな幸せ……これを大切にす

彼の、心の豊かさを織り込みました。

息子の仕事に対する真摯な姿勢を初めて第三者から聞く母親の目には、うっすらと涙がにじんでいました。父親は何度もうなずいていました…2人が普段着であることがとても印象的でした。

私は、結婚式の礼服や形式よりも列席者一同がこれから新しい人生を始める2人の幸せを願う心が一番であることを改めて学びました。

それから暫くして、幸太郎・史穂夫妻から「結婚式では大変お世話になりました。ありがとうございます。」と

の丁寧な礼状とともに、幸太郎さんが心を込めて焙煎したコーヒーが私のもとに届きました。そのコーヒーの芳醇な香りを楽しみながら、私は、「ささやかな幸せの一時」をいただきました。

私は、これまで58回ほどシビルウエディングの挙式を司りました。そこでたくさん

の素晴らしいカップルに出会い、多くのことを教えられたことを心から感謝しております。



シビルウエディング・ミニスター
渡邊 健氏

(わたなべ・けん 1955年静岡県生まれ。NPO「オアシスの会」理事。2004年シビルウエディング・ミニスター資格を取得。(有)アニバーサリーにて挙式を司る)